



認定看護師合格！！



認定看護管理者

3階東病棟 久留須加寿美



昨年熊本県立大学で認定看護管理者教育課程サードレベルを受講させていただき、今年5月に認定管理者の試験を受験し先日合格の報を受けました。看護部長をはじめ多くの皆様のご協力があったのことに大変感謝しております。

これから多様なヘルスケアニーズをもつ患者・家族・地域住民へ質の高い看護を提供できることを目指し、そのために必要な人材を育成しつつ働きやすい環境を保持していくために、認定看護管理者としての役割を遂行していきたいと考えています。しかしまだまだ力及ばない事ばかりで日々の業務に追われてしまうとは思いますが、皆様の期待に添えるよう努力していきますので、宜しくお願い致します。

感染管理認定看護師

手術室 長倉 周作



この度、「感染管理認定看護師」を取得しました。中野師長に続き当院では2人目となります。感染対策は目には見えない微生物を対象とすることから、グレーゾーンが多く、よく分からないという印象があると思います。私自身、これまでは曖昧な知識でいましたが、今回の研修を終え、感染対策は標準予防策を遵守することで、ほとんどの感染が防げることを理解することができました。その中でも「手指衛生」が特に重要となります。とは言え、なかなか遵守することは難しい状況があると思います。みなさんが感染対策に関心を持ってもらい、感染対策の向上につながるよう、取り組んでいきたいと思っています。

運動器認定看護師 2名合格！

3階西病棟 福園 晃代

運動器の役割は、QOLを維持すること、人は座る、立つ、歩く、走るといった動作によって運動し日々の生活を営み、人生を豊かなものにしていきます。その障害は、運動の自由を奪い、QOLを低下させ、結果的に生命も脅かします。学会認定運動器看護師の役割として、「実践」「連携」「指導」ができるように、日々自己研鑽しています。運動器の障害を持った患者の身体的・心理的・社会的問題に対し、医師を中心とした医療チームの中で、患者が必要とする看護が提供でき、患者が「川内市医師会立市民病院に来て良かった」と思えるような専門的な関わりを率先していきたいと考えています。

同合格者：包括ケア病棟 田代 竜也



新人職員一泊研修報告



体験学習「デコパージュ」



食事風景

日時：H28年6月4日～5日

場所：こもれびの里

交流センター丸岡さくら館
(霧島市横川町)

看護師、総合リハビリテーション部
放射線課、総勢19名参加



カレーライス・サラダ

新人看護師 堀田

新社会人としての生活が始まり2ヶ月が経過しました。日々何かを掴みたいと思いながら業務を先輩看護師と共にさせていただいています。そんな中で新人職員一泊研修が開催され、新人全員で親睦を深め合い、コミュニケーションをとりあうことができました。座談会では新人全員が今持つ不安や悩みを打ち明け、プリセプターや教育委員の方が答えて下さいました。それぞれが不安や葛藤を抱きながら仕事をしていると知り、自分自身の気持ちも軽くなりました。これからまた新人として得られるものを吸収しながら、同期の新人メンバーとともに成長し合える関係でいたいと思うことができた一泊研修でした。



新人看護師 宇都

今回、新人宿泊研修を通して、一番印象に残っていることは、他職種との事例検討です。自分達なりに一つの事例に対し看護、リハビリ、放射線科から意見を出し合い患者さんとの今後の関わりを検討しました。初めて他職種のスタッフと話し合い、いろいろな意見があり多方面から患者さんをとらえる事が出来ました。自分も看護師の一員として他職種との連携を積極的に行い、患者さんより良い関わりが出来る様にしていきたいです。

ウォークラリー



3階東病棟 森

プリセプターとして参加した今回の研修は、新人職員の様々な面に触れ、私自身沢山の発見や学びを得ました。それぞれが色々な思いを抱え、仕事に従事していること、多忙な業務の中でも自己の成長のために努力していること、そんな姿を垣間見ることが出来ました。新人職員とは言え、同じ病院で働く仲間です。互いに助け合い、共に学び向上できるように、プリセプターとして新人職員、他スタッフとの橋渡しの存在になれるように、今後も関わりを持って指導・教育にあたっていきたいと思います。



薩摩川内市消防局施設見学

院

内

研

修



6/23 スタートイン研修 テーマ「コミュニケーションの基本」 講師：臨床心理士 椿本

新人看護師 西村

看護師はコミュニケーションをとる事が重要だと日頃から感じています。困難を克服する声かけとして成長に注目するというものがありました。「なかなか良くならない」と不安を口にする患者もいますが、不安が少しでも軽減でき、活力につながるよう、日々リハビリや治療に励む患者への声かけに取り入れていきたいと思いました。また会話中の相手の反応も重要だと分かりました。不安や、望んでいることなど、患者の思いを引き出せるような表情、相槌を心がけたいと思います。





回復リハビリ病棟 川畑

これまでの職場で特別にメンバーシップやリーダーシップについて意識することはありませんでした。今回ウォーキング研修を受け、リーダーとメンバーの関わりについて学ぶことができました。リーダーとは「集団を統率し、その集団がやろうとする事や目的に向かってリードする役割」、メンバーとは「集団の構成員。メンバーとしてリーダーに協力し、目的達成のためにそれぞれの立場で尽力する役割」とのこと。これまでは、PNSで相手との情報共有ばかりに気を取られていましたが、他のメンバーもチームであり、情報共有することの大切さに気づくことができました。また、情報を共有する際には伝達方法にも注意が必要であり、分からないことは確認し、よりよい看護が提供できるように今回の研修を活かして看護介入できるよう努めていきたいと思います。

7/12 キャリア研修

テーマ「看護管理Ⅰ」

講師：長井副看護部長



4階東病棟 教育委員 林

今回はキャリアレベルを対象に42名の参加がありました。長井副看護部長より、看護とは・看護管理について・5つのマネジメント能力・看護者の倫理綱領・臨床倫理と患者の自己決定支援といった内容の講義をしていただきました。

「管理」という言葉を聞くと師長・副師長の仕事と思いますが、普段リーダー業務として行っているチームを有効に統制していることも、「管理」に繋がるのだと学ぶことができました。また、日々の臨床現場でジレンマに思う事を振り返り、看護倫理について考えることも大切であると気づきました。

現在、キャリアレベルの方は看護師の約半数を占めており病棟・病院での中心的存在行動が問われていると思います。今回の研修を機に看護管理について意識しながら行動し、自分自身の学びを深め、当該部署でリーダーシップを図ってほしいと思いました。

院 外 研 修



「日本看護倫理学会 第9回年次大会」に参加して

手術室 村尾師長

5月21・22日、日本看護倫理学会に参加させていただきました。患者を人として尊重することや患者の権利や利益を守るための自己決定の支援は、看護実践上の倫理的配慮として重視されている現状を踏まえ、患者のかたわらにいたることを許された者（アドボカシーゲーター）擁護者、代弁者として、その時々で揺れ動く患者・家族の感情を受け止めながらさまざまな困難に直面することもある中で、患者のセルフアドボカシーをエンパワーメントするという役割を認識することが必要です。手術室においても、患者の擁護者として、なぜそれが患者のために必要であるのか、例を挙げ、倫理の意識向上を図っている示説もあり参考になりました。

「第59回日本糖尿病学会年次学術集会、
糖尿病療養指導カードシステム導入のための講習会」に参加して

包括ケア病棟 濱田師長

今回、日本糖尿病学会学術集会と公益社団法人日本糖尿病学会主催の「糖尿病療養カード」研修会に参加させて頂きました。糖尿病は依然、完治困難な疾患であり、糖尿病予防・診断・治療において解決すべき課題を浮き彫りにし克服する方策を見いだすことが求められています。特別講演「がんを持ちつつ生きる糖尿病患者支援 肥後直子先生」では肺癌最期まで糖尿病治療に取り組まれた事例の発表があり、食事が制限されても血糖が良くなることに喜びを感じ、生きがいを感じておられた事例でした。肺癌患者へのアンケートでは「肺癌と糖尿病どちらの治療にも取り組みたい」と答えた方が80%を超えていました。このような結果から別疾患の終末期など糖尿病治療は後回しになりがちですが、患者の思いに沿った治療を継続することが必要だと感じました。

公益社団法人日本糖尿病学会から糖尿病患者に無料で提供されている糖尿病療養手帳が28年度大幅にリニューアルしました。また「糖尿病療養指導カード」は72枚のカードで、糖尿病患者に必要な知識をもれなく指導するためのツールとして開発されました。

当院でも糖尿病テキストを指導ツールとして配布してきました。テキストはそれぞれの受け持ち看護師が説明することになっていますが、現状としては、テキストの途中で退院になり、外来には申し送られず指導中断となったり、うまく活かされていません。このような問題を解決するには「糖尿病療養指導カードシステム」は有効だと感じました。

今後、多くの病院がこのシステムを取り入れることが予想できます。当院の糖尿病治療における役割は糖尿病患者の2次・3次予防につとめることです。そこで「糖尿病療養指導カードシステム」のどの部分を担い請け負っていくかを糖尿病ケアサポートチームで検討し導入準備を進めていきたいと考えています。

ミニラティブ

地域包括ケア病棟 黒武者



先日、糖尿病の足病変のある方のフットケアを行う機会がありました。今年の1月に糖尿病臨床技術研修会(糖尿病重症化予防研修～フットケア～)に参加して以来、実際患者にフットケアを行うのは今回が初めてでした。

患者は少しずつ足への関心を持つようになってきてはいましたが、もっと自分の足に関心を持って欲しい。退院後の生活での注意点や、傷を付けない方法などを話したいと、様々な思いで患者さんの所へ行きました。そんな私を見て「大丈夫ですか？私の足をお願いしますね。」と患者さんが一言。患者さんが自分の足に対して関心が低いと思っていた私は、予想外の言葉をかけられて「ハッ」としたと同時にフットケアの押し売りをしているのだと気づきました。患者さんの一言で、フットケアは看護師がするものではなくて退院後の患者さんの生活のために一緒に実施する！！と学んだ事を思い出しました。患者さんと一緒に足に触れ、足の状態を観察し、フットケアを行いながら足に対しての思いを聞いたりしました。患者さんの気持ちに添える看護を意識して行っていきたいと思いました。

マイブーム



外来 田島

マイブームと言えるかどうか分かりませんが、私が日々奮闘しているのは4人の子供たちの子育てです。長男・長女がスポーツ少年団でバレーボールチームに所属しています。技術はもちろんですが、私がバレーボールを通して子供たちに学んで欲しいことは、礼儀です。その中でもっとも大切にしていることは「挨拶」です。練習時、試合時、チーム関係者だけでなく、人に会ったらまず大きな声で挨拶をすること。簡単なようですが、私達大人でもなかなか出来ていないことがあります。

そして、もう一つ「感謝の心」、私も忙しい毎日を過ごす中、忘れてしまいがちですが、まずは親である私が色々な面でお手本を見せながら、子供たちと一緒に成長していきたいと思います。

一番下の子供が成人するまであと12年。まだまだ子育てが続きますが、健康第一で笑顔を忘れず頑張っていきたいと思います。



研修のお知らせ

I、専門研修

「脳卒中リハビリテーション看護」シリーズ

日時 第1回目：H28年8/20（土）

第2回目：H28年9/10（土）

第3回目：H28年10/22（土）

第4回目：H28年10/28（土）

時間 13:00～17:00

II、学研e-ラーニング研修

①中堅コース

配信期間：H28年8/1～8/31

「糖尿病の最新治療と合併症」

②管理職・チーム医療コース

配信期間：H28年8/11～9/10

「看護と労務管理について考える」



編集後記

先日、ある放送作家の訃報ニュースがTVで流れました。さまざまな名言を残されている方でしたが、映像から聞こえてきた言葉が、「今さらながらと思うかもしれないけど何事も結局は“基本”なんだよね“基本”を怠ってはいけない」と、というような内容でした。まさに私たちが働く医療現場は“基本”の上に成り立っています。

基本を怠ることでは何が起きるのかを考えて毎日の業務を行っているのでしょうか。リスクを背負う責任は大きいです。新人看護師のローテーション研修も残すところ1タームとなりました。今一度立ち返って、教える側、学ぶ側の“基本”マニュアルに沿って看護技術の習得に努めることが必須です。（小牧）

